

令和5年度 第2回 西小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年7月27日（木）9時30分から12時00分
- 2 開催場所 西小学校 会議室
- 3 出席委員 中谷 忠一、土屋 雅利、加藤 正寿、山田 悟央、
三上 昌子、岡野 みの、平出 慎一郎、鈴木 将孝、
福田 達樹、種茂 実予子
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 渡辺 浩司（校長）、長瀬 千晶（教頭）、佐野 教代（教務
主任）、古田 秀樹（CS担当職員）、加美 美紀（CSディレ
クター）、教員13名
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 加美 美紀
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、加藤委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 西小の子供たちのために、必要な力は何か。そのためにどんなことをしているか。どんなことをしたいか。
- (2) 西小の子供たちのために学校・保護者・地域は何ができるのか。

11 会議記録

協議事項について、委員と職員を交えてグループごとに話し合い、下記のような発言があった。

- (1) 西小の子供たちのために、必要な力は何か。そのためにどんなことをしているか。どんなことをしたいか。

①グループ（中谷委員、山田委員、岡野委員、福田委員、2、5年担任、生徒指導主任）

- ・自分の意見は言えるので、相手と自分の意見をすりあわせるなど意見の整理をする力を付けたい。
- ・話しやすいテーマからアプローチして、隣の人などペアで話す機会を作っていきたい。
- ・時間を守る、挨拶をするなどの力を低学年のうちから身に付けさせたい。
- ・体力がなくケガが多い。体調不調の子も多く、体力面で心配になる。

- ・西小学校の子供たちは、良い家庭で大切に守られている子が多く、優しく我慢ができる子供が多い印象がある。
 - ・意見は違って当たり前なので、ロールプレイングを活用して子供同士で解決し合わせる機会を増やしてはどうか。
 - ・タブレットを活用すべきだと思う。発表が苦手な子も自分の意見がかけて、口頭による周りの意見に流されることがないのでよいと思う。
- ②グループ（土屋委員、平出委員、種茂委員、教務主任、3、4年担任、養護教諭）
- ・初めてのことを恐れてしまう。経験・体験し、自分で考え判断し、行動・解決してほしい。
 - ・気持ちが乗らず保健室への来室が多い。折れない力、他の見方を受け入れる力が必要。
 - ・西小学校の子供たちはとても恵まれている子供が多いため、困る経験がないのは良いことだが、反面、たくましさは薄いかもしれない。
- 困難があってもやり抜く力、社会、諸外国で生きていくためにも目標をもって取り組むことを経験しなければならない。まだ、発達段階であるため、小さな成功体験をつみ上げて、与えられたチャンスを自分で選び、伸ばして行ってほしい。
- ・のびのび、元気に過ごしている。 ・ ネットモラルを守ることも大切。
- ③グループ（加藤委員、三上委員、鈴木委員、1、6年、スマイル学級担任、担任外教員）
- ・自分の意見だけを主張するのはよくない。主張と受容のバランスが必要である。
- 相手を受け入れないと自分の意見も言えない状況になる。コミュニケーションの取り方が重要。言葉の力が必要。
- ・自分で考えることで課題が見つかり、答えを見つけることができる。他人と関わることで、一緒にやる活動が増えていく。

(2) 西小の子供たちのために学校・保護者・地域は何ができるのか。

①グループ

<学校>

- ・安心して登校できる学校づくりをみんなでやっていく。
- ・目的をはっきりさせた話し合いや交流を意識していく。
- ・自分の思いや答えを伝えやすくするため「間違えてもいい」という雰囲気づくりを学級でつくっていく。
- ・子供たちが課題を見つけ、解決策を考える授業を増やす。
- ・授業、勉強が楽しいと思える工夫をする。
- ・ICTを活用し意見しやすい授業づくりを行う。
- ・ブログや学年だよりで先生の様子を発信する。 ・人材を増やす。
- ・教員の負担（会計、部活動、プール管理、教材発注など）を減らしていく。

<保護者>

- ・子供のためにどうしたらいいかを考え話し合う。

<地域>

- ・出前授業を増やす。先生を助けるため「地域支援ボランティア」を結成する。

<その他>

- ・教員が授業や学級づくりに力を出せるよう、教員でなくてもできることを地域保護者に願う。
- ・早朝遊びタイムの復活をしたい。そのためには、子供たちを見守るボランティアが必要。部活指導もボランティアに協力いただけるのではないかな。

②グループ

<学校>

- ・基礎学力の充実を図る。
- ・自分で判断する場、興味もちそうな場を提供することが大切。(失敗しても大丈夫という雰囲気をつくる。)
- ・コツコツと頑張る過程を褒める。 ・ 集団生活のマナーや約束を教える。
- ・多様性と相互理解の大切さを教える。
- ・子供たちと触れ合う時間を取るために、先生の働き方改革の推進

<保護者>

- ・保護者間ネットワークを築くことが必要なのではないか。
- ・宿題の見届けを保護者がすることで、先生の時間が授業や子供たちに向けられるのではないかな。(休み時間に宿題の採点にならないように)
- ・子供の成長する芽を信じ、すぐに手を出さずに見守ることでたくましく育つのではないかな。

<地域>

- ・部活の完全外部委託や授業のお手伝いができる。
- ・学習見守りボランティアを募る。
- ・登下校中の声かけからやっていくことが大切ではないかな。

<その他>

- ・協力者、関わりたい人が手を挙げて、ボランティアとして学校へ入っていくとよい。
- ・地域を知る、日本を知る授業が必要だと感じる。
- ・子供が地域への奉仕活動に参加するようになると、地域とのつながりができる。

③グループ

<学校>

- ・クラスの友達の良いところを見つけ「良いことBOX」に投函し、みんなで共有する。
- ・言葉の使い方、感じ方についての授業を行い、表現力を育てる。
- ・ディベートの時間を作り、様々なテーマについて考える機会を作る。

- ・挨拶運動の継続、拡大を行う。

<保護者>

- ・挨拶運動へ協力をして家庭内につなげる。

<地域>

- ・挨拶運動へ協力し、地域につなげていく。

<その他>

- ・学校以外のところにも子供が安心して過ごせる居場所づくりが必要。

グループごとの協議と発表の後、委員からは以下の発言があった。

- ・コミュニケーション力をもっと伸ばすために、イエス、アンドで考えようという研修を受けたことがある。相手の意見を受け入れ理解し、次の展開を予想するシナリオのない即興劇だが、それを取り入れてはどうか？（鈴木委員）
- ・マスクを取り、顔をみて話す、触れ合う、交流することはとても良いことだと思う。
(加藤委員)
- ・西小学校で困っていることを解決する場が、このコミュニティスクールだと思う。今日先生方と直接話して、悩みや困っていることが分かった。困っていることをもっと伝えてほしい。例えば西小サポーター制度を設けて、給食時の配膳の手伝いをするボランティアを募ってはどうか。（山田委員）
- ・地域と家庭は、より一層学校と関わっていくことが大事ではと感じた。（平出委員）
- ・家庭科で針と糸を使った授業の手伝いをしたが、1人の先生が30人を見るのはとても大変なことを感じた。これからもバックアップしたい。（岡野委員）
- ・この協議会で先生たちの気持ちを聞き、保護者の協力はもっと必要だと感じた。（種茂委員）
- ・学校内で、これは大切なこと、これはなくしていいものとまとめるのは難しいと感じる。なくしていいものの中にも大切なものがある。まとめる必要はないのかなと思う。（土屋委員）
- ・ボランティアの集め方が大切で、多様な集め方を考えてもいいのではないかと。いくつかチャンネルを持つておくといけ、いくつかの団体でつながるのも良い。人材が集まる方法を考えないといけないと思う。（福田委員）
- ・先生方と話し合ってみて、よく見えてなかったことが、見えた気がする。これからも様々な角度から学校を見ていきたい。（中谷委員）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

連絡事項

司会から、次回の会議は、令和5年11月16日（木）13時30分より 西小学校会議室にて開催する旨の連絡があった。